

2011年3月11日東日本大震災発生から1ヶ月 CIVIC FORCEの実績とこれからの活動

「やっと人間に戻れた」—被災地のいま

被害の甚大な三陸地域は、依然として緊急支援が必要な初期段階にある、と私たちは認識しています。私たちが拠点を構え、重点的に活動を展開する宮城県南三陸町では、避難所の食事は朝夕のおにぎりのみ。この1ヶ月間お風呂にすら入ることができていない方が多く、津波の被害があまりに甚大で、支援の手が行き届いていません。被災された皆さんは、家族や資産、仕事をうしなった衝撃に加え、プライバシーや衛生環境に大きなストレスを感じています。4月に入ってようやく手作り風呂が完成しはじめ、被災者の皆さんに汗を洗い流してもらえるようになりました。ほぼ1ヶ月ぶりに風呂に入った50代男性は、

「これでようやく人間に戻れた」

と、避難所に戻りました。おにぎり中心の炭水化物は体を維持するのに欠かせません。しかし、たんぱく質やビタミンが不足しています。避難所ではノロウィルスや急性胃腸炎が伝染し始めており、その原因として栄養バランスの偏りや風呂に入れていない衛生面の悪化が指摘されています。

忍耐がよく、気遣いを忘れない東北の人

避難所は地域の町会・自治会や婦人会、消防団が行政と連携して運営しています。選択の自由がない状況の中でも、がまん強く耐えているようにみえます。物資が手薄な避難所でも、もっと大変な避難所に物資を回してほしい、と話す方々。手作り風呂ができれば、日中がれき撤去や避難



南三陸町歌津中学校校内避難所

所運営に汗をかく男性から入れてやってほしい、というご婦人たち。ご自身だって、朝から夕方まで炊き出しに、被災者のケアに忙殺されているのに。食事もある若者から回してほしい、という年配の方々。お風呂にすら入ることができない人が、ゆずりあっています。

しかしその状況は限界に近づいている、と感じます。大震災発生1ヶ月を迎え、町会や婦人会の方々だけで毎日休みなく避難所を運営できません。仮設住宅は、秋口にならないと入居できず、しかも、必要な全世帯分は確保できていません。避難所生活が長く続くことを前提に支援を組み立てていかなければならないと考えます。

いまだ緊急支援の段階

Civic Forceでは、いまだ災害支援の初期対応の段階にあると考えています。最低限の避難所での生活が維持できていないとの認識のもと、事業を継続していきます。



▲
現在の段階（Civic Forceの認識）

大震災後1ヶ月の取り組み

Civic Forceは、いち早く支援に動きました。3月11日の大震災発生を受けて、翌12日には、平常時より連携を確認していた民間のヘリサービスを利用して宮城県上空からの視察隊を手配しました。大震災発生後2日目には、津波による被害が特に大きく支援が行き届きにくい三陸地域・気仙沼に降り立ち、防災訓練を一緒にしていた行政や企業から必

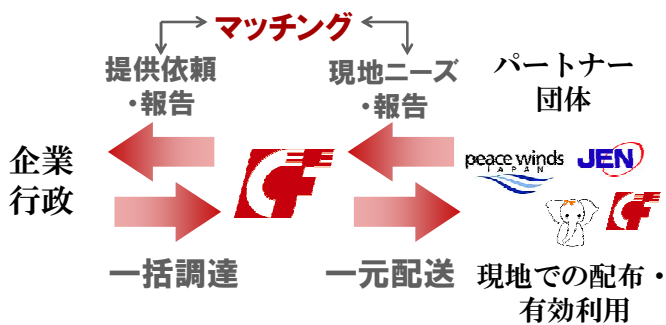


要物資の提供を受け、空路・陸路から物資とスタッフの派遣を開始しました。大規模災害を想定した平常時からの行政・企業連携が、迅速な始動を可能にしました。陸路が絶たれ、燃料が確保できない中、備蓄が多い航空燃料を利用したヘリ輸送は、今後の大規模災害への布石になった、と自認しています。

避難所物資のマッチング

即座に開始したのは、物資の効率的調達と配送の調整事業です。震災発生直後、三陸地域だけでも避難所に5万人を超える人が肩を寄せ合い、毎日15万食のほか、衣料や日用品をいかに確保するか、が課題となりました。

大震災直後は、ヘリによる輸送を繰り返しながらも、私たちは、陸路がある程度確保できた3月23日より、現地で必要とされる支援物資を効率よく調達し、タイムリーに配送するチャータートラック定期便の運行を開始しました。



具体的には、現地の災害対策本部と協議しながら、パートナー団体があげてくる支援ニーズを、全国の企業や地方自治体から流通在庫や備蓄品を無償もしくは有償で提供いただくほか、NGO等に集められた物資を一元管理し、チャーターした10台の4トントラックを毎日運行し、パートナー団体（ピースウィンドズ・ジャパン、JEN、被災地NGO協働センター）およびCivic Forceが活動をする被災地5市町（宮城

県気仙沼市・南三陸町・石巻市、岩手県大船渡市・陸前高田市）にお届けしています。これまでに調達・配送した物資の累計は、下記の通りです。

- 総量：209 トン
 - －4tトラック 83 台・10tトラック 1台
 - －食料約 19 万食分、衣料約 13 万点分を含む
- 到着品目：計 200 品目
 - －食料：約 60 品目
 - －衣料：約 30 品目
 - －消耗品：約 40 品目
 - －設備用：約 70 品目

必要物資については、現地の声をもとに東京の栄養士2名からの助言を加え、栄養バランスに配慮した食料をお届けしています。免疫力を高めるビタミンを摂取するためのフルーツや、代謝をよくする食物繊維を含む干しブドウや干しイモのほか、さんま缶等栄養価の高い品目をそろえています。

なお被災地にお届けする物資のうち、無償でのご提供もしくは安価でのご提供をいただいた企業は、のべ85社にのぼります。その他、購入してでも被災者の皆さんの生活を支える必要のある品目については、ご寄付から購入し、配送させていただいています。ご理解いただけますようお願い申し上げます。

生活環境改善プロジェクト

被災された方々の最低限の衣食住を確保すべく、現在、手作り風呂の設置事業を展開しています。4月10日までに、南三陸町内で4カ所に設置し、ほぼ1ヶ月ぶりに汗を洗い流す方が増えています。

Civic Forceでは、地元の方々の復旧・復興にかける強い想いを応援していきます。この手作りお風呂の事業も、地元の被災者の皆さんが、ドラム缶にお湯



を入れて五右衛門風呂を作っていた様子を見たことに始まります。

現在、南三陸町の地元大工さん 10 人以上を中心に、東京等から大工チームが常時 10 人程度現地に入り、現地の大工さんの指示のもと活動しています。必要な資材は東京で調達し、トラック定期便で配送しています。“プロの仕事は百人力”で、設営を重ねると、作業効率はあがっていきます。

また設営にあたっては、地元の皆さんにもご協力いただくほか、火をおこし、お湯を沸かす作業や、場合によっては薪作りの作業、入浴時間の管理等を、地元の皆さんが自主的に運営することができるよう、丁寧に引継ぎをしています。

避難所生活が長期化することを想定して、手作りお風呂も継続していきます。

今後数ヶ月の取り組み

継続事業

- ・物資の調達・配送事業（5 月ごろまで）
- ・手作り風呂設営事業（4 月末ごろまで）

依然として三陸地域の避難所生活は、最低限の衣食住が整備されていない、との認識のもと、これまで展開してきた物資の調達・配送事業と、手作り風呂の設営事業は、地元のニーズを注意深く見極めつつ継続していきます。

物資の調達・配送事業については、避難所ニーズや倉庫から各避難所までの配送ルート稼働状況次第で、今後お届けする量を減らしていく可能性もあります。また、企業から無償の炊き出しの申し出があれば、現地災害対策本部と避難所本部と調整し、被災者の負担を軽減できるようにします。

また、大工作业については、倒壊した自宅から引き

上げてきた私財を保管する場所を避難所にするニーズもあり、手作り風呂以外にも大工さんに活躍いただき、避難所生活を改善します。

新規事業



今後、緊急災害支援から、避難生活の改善に向けて、特に行政等の支援の手が届きにくい領域、もしくは行政が支援を行うが、量的に不足することが予測される領域に事業を拡大していきます。

■孤立地域への人とモノのルート確保

三陸地域の中で 3,000 人が自由な移動を確保できていない地域があり、人とモノの流通が滞っています。気仙沼湾に浮かぶ東北最大級の有人離島「大島」には、大震災以降、小規模な定期船しか通っていません。水・電気が復旧していない島に、車や大型物資が行き来できる大型カーフェリーが必要です。Civic Force では、現在大島と気仙沼港を結ぶカーフェリーの再開にむけて準備をしています。

■プライバシー確保のためのパーテーション

避難所生活が長期化する中、お風呂に並んでニーズが高いのは、プライバシーの確保です。近く個室に近い空間を作る、災害用ベッド付きパーテーションを南三陸町に納入し避難所に順次設営していきます。

■一時的な居住空間の確保

併せて、仮設住宅の入居まで数ヶ月かかる現状を勘案し、住み慣れた地域内でありながらも、避難所外で生活できる一時的な居住空間の確保も検討しています。



■災害弱者への支援

その他、被災した方々の中でも、支援の手が行き届きにくい領域に、その手が届くよう、積極的に支援していきます。

－災害弱者の保護

被災地域に暮らしていた外国人や難民の皆さんが、不安や生活に困難を抱えています。専門家を交えた適切な支援をパートナー団体と検討・調整中です。併せて、女性が安心できる避難所生活を確保できるよう避難所の生活改善にも取り組む予定です。

－高齢者を中心にした健康管理

健常な高齢者にとっても、今回の避難生活は、体と心に大きな負担をかけています。看護師が巡回訪問し、健康状態のモニタリングや保健衛生指導を予定しています。

－個人ボランティアのマッチングシステム

行政サービスは回復しつつありますが、個人の生活を取り戻すには、圧倒的な人手が不足しています。個人ボランティアを組織的に派遣・管理する仕組みをつくる方向でパートナー団体と検討中です。

－ボランティアリーダーの育成

さらに地元で活躍するボランティアリーダーを育成する事業を検討しています。この事業は、石巻市とは異なる地域においてパイロット実施する計画です。

□ 中長期的な展開 □

中期的には、被災地の団体が力を回復し、復興に向けた取り組みの主体となるための支援を積極的に行う計画です。既に一部の地元団体と中長期的な協力関係について協議を開始しています。その中には、漁業復興に向けた取り組みをする方々も含まれます。

Civic Force では、被災地の力を信じ、サポーターとして、地元の皆さまの取り組みを応援していきます。

私自身何度も被災地に入り、地元の皆さんと議論を重ねています。東北の人は、強い。東北の人は、立ち上がる、と確信しました。

いまはまだまだ緊急支援が必要です。しかしこれからは、漁業の復興など、さらに長丁場の復興が始まります。

4月10日までに、総計で7億円をこえるご寄付を4万以上の個人や法人の皆さまからご提供いただきました。これほどまでに市民（Civic）の力を感じ、勇気付けられたことはありません。

今回のような大規模災害の支援は、行政だけでも、企業だけでも、NGO だけでも対応しきれるものではありません。中長期的な復興に向け、Civic Force は、引き続き企業・行政・NGO の連携を活かし活動を続けます。さらなるご支援をよろしくお願ひします。



公益社団法人 Civic Force
代表理事

木西 健丞

※ホームページ (<http://civic-force.org/>) のほか、ソーシャルメディアでも発信を続けていきます。現在、twitter のほか、YouTube で動画の配信を始めました。facebook では、英語の配信をしています。ご注目ください。



@civicforce



facebook から Civic Force で検索



<http://www.youtube.com/user/civicforceorg>

※写真のお断り

Civic Force では、被災者の皆さんのプライバシーを尊重し、個人を特定できる写真等の記録の公表を差し控えています。予めご了承ください。